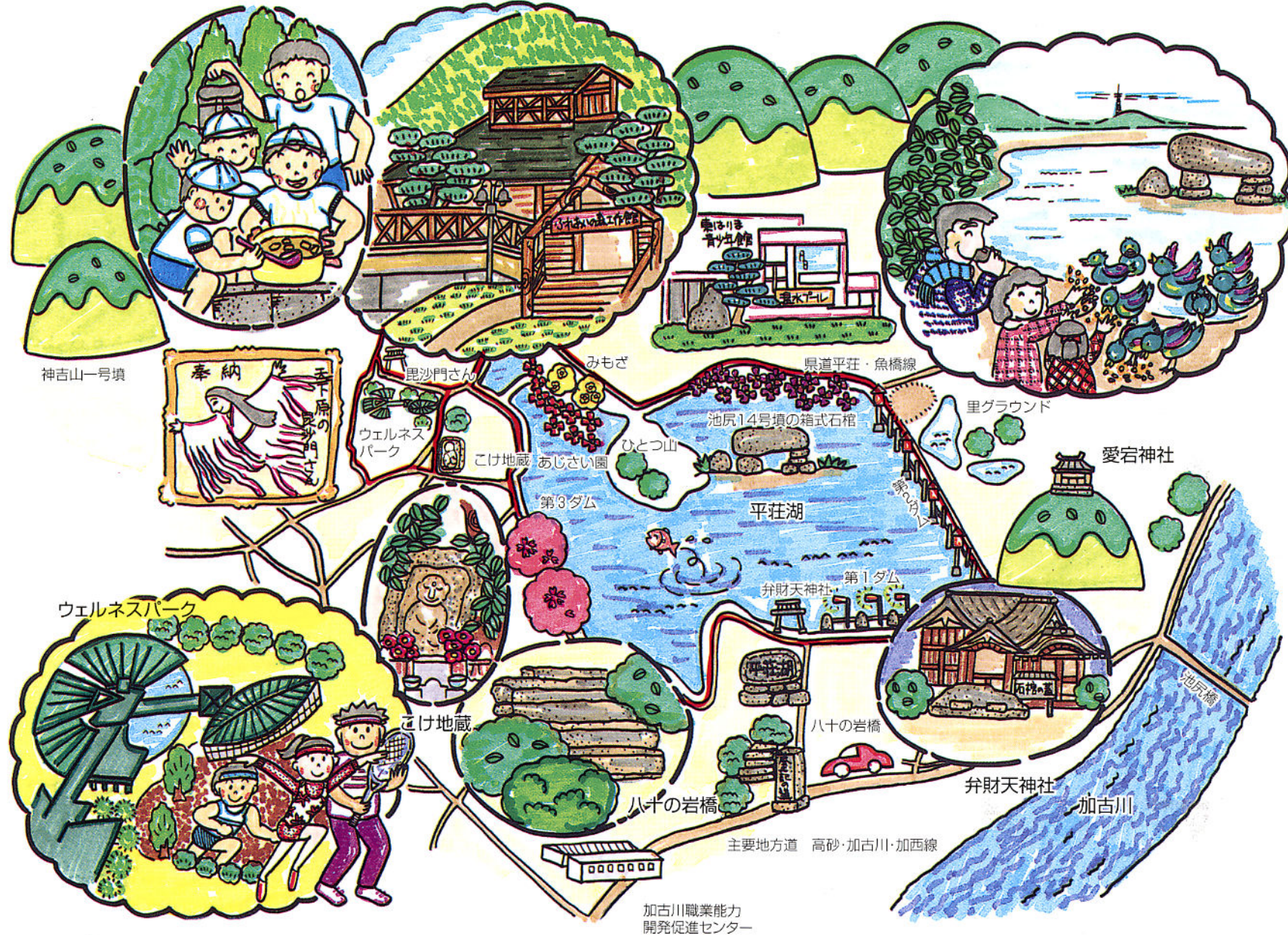


平荘湖 周辺散策

歩いてまわれる「コース」で名所旧跡を紹介する散策シリーズ。
春は桜、夏はあじさい、冬は鴨……
周辺の自然景観が美しい「平荘湖周辺散策コース」。
加古川再発見に、さあ、出発！



コース 所要時間 1時間28分・5.8km

少年自然の家

2.6km
39分

弁財天神社

2.0km
30分

こけ地蔵

0.3km
5分

ウェルネスパーク
(南ゲート)

0.3km
5分

毘沙門さん

0.6km
9分

少年自然の家

平荘湖 周辺散策



八十の岩橋

バス停の“池尻ダム口”のすぐそばの升田山のすそに階段状になった岩が上の方へと続いています。下の方は道路を広げる時にこわされて、昔の姿はありませんが、これが播磨風土記などに出ていた八十の岩橋です。大むかし、この橋は天までのびていて、いざなぎ・いざなみのふたりの神様といっしょに80人の神様が降りてこられた所といわれています。

又部の弁天さん

平荘湖の底に沈んだ又部新田村に、弁天池という大きな池がありました。池の北東隅に木の茂った島があって弁天さんがおまつりしてありました。この島は実は古墳で、弁天さんが、しばしば稚児（ちご）に化けて現れ、池のうてみの上にたてられていたという言い伝えから里人は稚児が窟（いわや）と呼んでいました。この古墳の上に社があったのです。

稲の神・食物の神として土地の人は崇敬していました。昔、この村に彦衛門という人がいました。田の水入れ、池の守りなどしていた関係から、毎日池に行き、いつの間にか弁天さんと心安くなっていました。ある日のこと、島の上から娘姿の弁天さんが手招きをして言いました。

「いっぺんそこの家へ遊びに行きたいが、天界の身、人に見られると困るので、家の者をみんなよそへやってもらえんやらか」と言いました。彦衛門はうれしくなり、おかみさんに親類へ使いに行くようにいつかうまく送り出しました。おかみさんは、何かあるぞ、と思い、出ていくふりをして途中から引き返してきました。帰ってみると案の定、家の中から女の人の声が聞こえてきます。こっそりと窓からのぞいて見ると、主人は、きれいな着物を来た美しい娘と、並んで話をしているところだったのです。おかみさんがのぞいたのを見つけた弁天さんは、「下界の人に見やぶられた以上ここにはおれない」といって立ち上がりました。「まあ、待ってください」と彦衛門がおしとどめようとした時、袖を持って引き戻そうとした拍子に袖がちぎれ、弁天さんは飛び出して行ってしまいました。彦衛門の手には、ちぎれた片袖が残っていました。島に帰った弁天さんは、「ひとところにすつといるとなじみができていけない。」と言って淡路へ行ってしまいました。弁天さんがいなくなった又部村では、それからは、この片袖をご神体としておまつりしているといわれています。

一方、淡路へ行った弁天さんは、又部でこりたので回り弁財天として、一か所にじっとしないで、今も各土地を回っているといわれています。



春



夏



秋

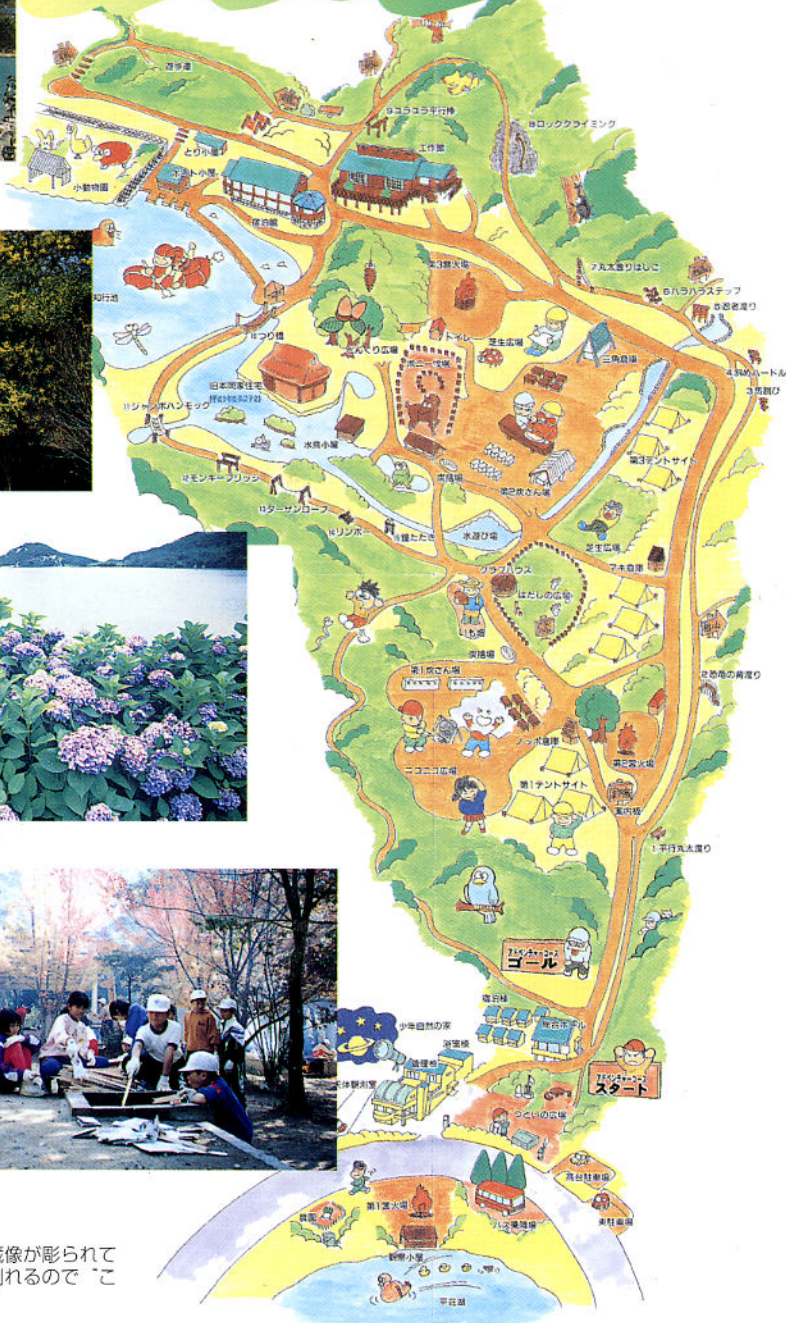


こけ地蔵

家型石棺のふたに立像の地蔵像が彫られています。何度おこしても前に倒れるので“こけ地蔵”といわれています。

少年自然の家・野外活動センター 冒険マップ

問合せ先
0794 (32) 5177



ウェルネスパーク Wellness Park



総合的な健康づくりの拠点として、ウェルネスセンター、音楽ホール、図書館などがあり、自然光のふりそそぐロビーやテラス、緑をふんだんに取り入れた庭園そして水辺が、訪れる人にやすらぎをあたえてくれます。